



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼人 田口芳博
半年 1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825-0000569

九次策下の闘いへ決意

定期総会で行動方針・予算決まる

一九九一年度の三池労働定期総会が九月十五日、午前九時から労働金庫大牟田支店ホールで開かれ、厳しさが予想される九次策下のたたかいへ、団結してねばり強くたたかうための行動方針と予算を決定、大会宣言などを採択しました。

組合歌「炭掘る仲間」の全員合唱で始まった定期総会は、議長団のあいさつ、黙とう、書記任命のあと退職者表彰(古家良一、甲斐俊久、古賀明、古澤栄一、坂田俊昭、境洋、西川登志夫、北村存、松本剛泰、目崎幸男、草野篤志、牧園清子、浦川秀夫、高木哲雄、田中孝子、西原隆寛、徳永静子、藤本政男、新本道敬、森洋一、浦田謙二、吉田久義、田尻禮二、佐藤一、荒尾支店代表)、緒方

三池退職者の会長、甲斐三池のあつと質疑討論を行い、八人の代表が今後の石炭政策の展望と三池の現状と企業の対応、連年の激闘と国際情勢の見方、予算出炭遂行と地域対策などについて、組織対策と地域対策などについて、また、細谷連合荒尾・玉名地域協議会議長、酒井熊本議員、田島玉名市議、甲斐田大牟田記念病院院長、労働金庫大牟田支店からの祝電が披露されました。

報告事項では、一九九〇年度の決算報告と監査報告がそれぞれ報告され討論のあと承認されました。なお、定期総会終了後委員会が議事に入り、行動方針案の説明



定期総会であいさつする中原組合長

不当解雇訴訟
第十六回公判
日時 9月25日(水) 14時開廷
場所 福岡地裁三〇一法廷
※11時大牟田駅集合、11時23分発
※中原組合長に対する反対尋問

石特予算をみる

六月七日の石炭政策答申以降、炭労、石炭労協は政策内容の具体化や石特予算に向けて政府・石炭業界と、中央行動を含めた交渉を続けてきましたが八月末、通産・労働両省は大蔵省に九二年の石特予算概算要求を出したのをうけて、両省との折衝を行って説明をうけ解明にあたりました。

〔通産省関係〕
1、石炭関係は十年延長する。
石特予算財源は十年間では減るが、来年度は若干増の千四百五十億円を要求した。
2、合理化安定対策(坑内骨格構造補助金、保安確保補助金、安定補助金、保安確保補助金、安定補助金)などは継続する。

〔労働省関係〕
1、従来からの黒字帳制度は継続し、再就職促進のために就職支度金を増額(一年未満百五十日から百八十日)、移転費、住宅手当などの単価を引き上げる。
2、離職者対策を実施すると同時に、炭鉱労働者雇用安定助成金、石炭企業の経営多角化等などに対する雇用管理援助事業などを創設する。

雇用安定助成金では、①配置転換、出向、再就職などの雇用移動、②これに伴う事業内・委託を含めた職業訓練などに対応する賃金助成などを行う。

雇用管理援助事業については、石炭企業に対し雇用管理面のアドバイザー、手法の伝授などを雇用促進事業団を通じて推進していく。

秋闘、要求提出へ

炭労の秋闘闘争は、退職手当、じん肺・せき損、職業病(振動障害)、難聴・熱中症、腰痛、定年延長などの要求が九月三十日に要請書を提出、十月中旬以降交渉に入り下旬の決着をめざします。

秋闘諸要求は、第八次石炭政策が実施(本年度は最終年度)されれば、九一年間にわたって据え置かれ小幅の一時引き上げで推移、ちと共郷土・柳川の文学作品の掘り起こしにつとめ、七七年『郷土の文学』を出版、柳川出身の国文学者藤村作顕影碑建立委員会事務局長として建立に尽力、九一年杉森女子高等学校退職、福岡県私立学校教職員組合結成と同時に書記長就任(現在に至る)。本年四月の統一地方選挙で福岡県議選に柳川選挙区から立候補・落選。現在、社会党福岡県本部副委員長。住まいは山門三橋町百町一五五六で、一男二女の母親。

プロフィール



本村和喜氏(自民)の死去に伴う参議院福岡選挙区の補欠選挙が九月十一日告示、二十九日投票で行われます。この選挙は、証券・金融系キャンダルの真相解明、PKO(国連平和維持活動)への自衛隊派兵、小選挙区制導入などが争点です。参院での与野党逆転状況継続のために必勝を。

一九三三年(昭和八年)生まれ、五十七歳。五年熊本県立天草高校卒業。五六年九州大学文学部を卒業して幼い頃から夢だった教師に、杉森女子高等学校の国語科教師として、生徒た

9.28三川鉱災害抗議学習会

大里仁士 九州国際大学教授を展望して
9月27日(金)午後5時
三池労働組合会議室

定期総会での組合長あいさつ(大要)

このような厳しい情勢の中で、昨年九月当時の武藤通産大臣から「今後の石炭政策の在り方について」諮問され、石炭政策部会での審議を経て、本年六月に答申されました。

この答申は、八次策以上に厳しいものです。具体的には、九〇年代を構造調整の最終段階として、生産量の段階的縮小・炭価引き下げの検討・経営の多角化など、明らかに国内炭の縮小・撤退を示しています。

九次策の枠組みは決まりましたが私達の要求である『現存炭鉱の維持存続』のたたかいに向けて、これからの運動課題である需給、財源、雇用、地域対策などのたたかいを、広範な人々に訴え、幅広いたたかいの戦線を構築しなければなりません。

そのために本日の定期総会がみなさんの真摯な討議で、明日からのたたかいの糧になることを期待し、決意を込めてのあいさつと致します。

一九九一年九月十五日
組合長 中原 一

スローガン

- 一、第九次石炭政策による閉山・縮小合理化に反対し、雇用と生活を守り、労働条件向上のたたかいを強めよう。
- 一、社会的趨勢に逆行する定年退職前倒しの基準解雇に反対し、解雇無効と損害賠償の裁判闘争の勝利をめざしてたたかおう。
- 一、長期抵抗統一路線を基調に、職場と地域闘争を強め、三池炭鉱全労働者の統一闘争を進ませよう。
- 一、重要、重大、頻発災害の絶滅をめざし、生命を守る保安闘争を強め、安心して働ける職場を確立しよう。
- 一、国民世論を無視した自衛隊海外派遣や小選挙区比例代表並立制に反対し、平和憲法を守るたたかいを強めよう。